

## 学校最前線 【TOPIC】

### 校務分掌「ICT教育推進室」の新設

大阪府立東百舌鳥高等学校 稲川孝司

はじめに

二十一世紀の情報化社会において「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法」の施行を踏まえ、情報通信技術に関する様々な国家戦略が策定されてきた。しかしながら「教育の情報化については、これまで策定された国家戦略に掲げられた政府目標を十分達成するに至らず、また、他の先進国に比べて進んでいるとはいえない状況にある」という指摘がある(1)。

そこで、文部科学省は「教育の情報化ビジョン」を公表し、①情報活用能力の育成、②教科指導における情報通信技術(ICT)の活用、③校務の情報化の三つの側面を通して教育の質

の向上を目指そうとしている。さらに、新学習指導要領改訂に向けて教育界が大きく動き始めており、ICT化が進む社会への対応力の育成と、ICTの特徴を生かすことによる教育の質の向上をめざすことが求められている。

新分掌について

そのため東百舌鳥高校(堺市)では、校長のリーダーシップのもと、学校経営計画に基づき、高度情報通信ネットワークに対応でき、学校全体で円滑なICT活用ができるように、さらに一部の専門的な教員の負担軽減と分掌の共有財産にする「ICT教育推進室」という分掌を平成二十八年四月に新設し

た。

ももとは教務部内の一部署であったが、平成二十七年の夏にすべての普通教室にプロジェクトターを設置したことや、協働学習ができるように机や椅子を配置した「アクティブラーニンググループ」などを整備したこと、平成二十七年からの二年間のパナソニック教育財団の特別研究指定校として「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」の研究を実践していることから、コンピュータの管理、ソフトウェアの管理、校務支援システムのデータ管理などだけでなく、授業でICTを活用して生徒の学びをより一層深めるために必要な教育手法を普及させることや研究することも目的



アクティブラーニンググループでの授業

にして分掌を新設している。

初年度は、教員並びに生徒のICT活用を促進するために、機器の操作等の研修を行いICT活用の支援を行うこと、教員の活用率八〇%以上をめざすこと、校務支援システムを教務部、進路指導部と連携してスムーズな運営の方法をさぐるなど、なごを目標に活動を行っている。

【引用文献】

(1) 教育の情報化ビジョン(21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して)

平成二十三年四月二十八日 文部科学省